

## 8 石神古墳 1基 附 大岩<sup>おおいわ</sup>2号墳（史跡）

所在地 吉野郡大淀町大岩 103 番地 6 の一部

所有者 株式会社奈良ロイヤルゴルフクラブ

時代 7 世紀

石神古墳（大岩 1 号墳）は、奈良盆地から五条・吉野地域へ通じる巨勢谷から直線で南東へ約 1km の丘陵上に立地している。

墳丘は直径約 22.5m、高さ約 4.3m の円墳である。埋葬施設は花崗岩の巨石を用いた横穴式石室で、石室の長さ約 10m、玄室の長さ約 4.2m、幅約 2m、高さ約 2.1m である。奥壁は 2 段、側壁は 3 石を 2 段に積む。羨道の幅約 1.5m、高さ約 1.6m、側壁は 2 段積みである。玄室中央部の主軸線に沿って組合式石棺が置かれ、玄門部付近に追葬された木棺が置かれたと想定されている。玄室内からは、須恵器子持器台・壺・蓋杯、鉄製品などの遺物が出土した。築造年代は、石室の形態と出土土器から 7 世紀中葉と考えられる。

石神古墳の横穴式石室は、吉野郡域では最大規模である。玄室の天井が低いのが特徴で、明日香村打上古墳、香芝市平野 1 号墳などの 7 世紀の奈良盆地の主要な横穴式石室に類似する。石神古墳から出土した子持器台は紀ノ川下流域の古墳に集中して出土する傾向があり、被葬者と紀伊地方との交流をうかがわせる。このように石神古墳は、奈良県の古墳文化を知る上で非常に貴重なものである。

